



コロナの感染拡大防止には

全員のPCR検査と勤務「免除」の拡充が必要！

新型コロナウイルス感染者の累計数が全国で82万人を超え、緊急事態宣言が出された東京では14日、一日の感染者が千人を超えた。JRにおいても多数の職場で感染者が発生し、新宿駅でのクラスターはプレス発表された。こうした中、6月下旬、東京支部管内のH駅において、JR・JESS複数社員の新型コロナウイルス感染が確認された。



駅は常にコロナ感染のリスクが付きまとう

H駅のJR側では一部の社員のみ「濃厚接触者」と判断され、「免除」による2週間の自宅待機。待機中にPCR検査を行い、陰性の確認がされた。「濃厚接触者」とされなかった他の社員も、会社の判断で検査を受け「陽性の疑いなし」と保健所に報告を行っている。

一方、JESS側では管理者の報告をもとに「濃厚接触者なし、検査不要」と保健所から回答がされた。しかし、心配した組合員が、無症状でも駅全員のPCR検査実施を会社に要請するとともに、個人でPCR検査を受け、JESSに報告。その後感染者が複数出ている事もあったのか、翌日には「全員PCR検査を受けて下さい」と指示がされた。二度の検査で陰性確認。費用についてはJESSが後払いするとのことになった。

職場の声・意見

- ・ JR・JESSと感染者が出ましたが、こうした現状はどこにでもある。しかし、家に帰れば、子供・年寄・疾患持ちがいるので、深刻な事になりかねない。
- ・ 感染者が出た職場では、無症状でも全社員への「PCR検査」を実施して欲しい。その事が感染拡大防止になるし、社員・家族の安心に繋がる。
- ・ 「PCR検査」の結果が出るまでは「免除」の扱いにしなければ、みんな出勤し、感染が広がってしまう。
- ・ 感染者が出た職場の聞き取りや報告によって「濃厚接触者」の扱いに違いがあるのではないかな。基準があいまいであり、明確にしてほしい。

ワクチン接種（職域・自治体）の遅れ、混乱が続いている中、感染防止対策はさらに強めていかなければならない。

東京支部は、すべての社員が安心して働き続けるために、希望する社員には早急なワクチン接種、感染者が出た職場での「全社員のPCR検査」の実施、疑いのある場合には、「免除」など気兼ねなく休める体制づくり、またワクチン接種できない（希望しない）方への偏見や差別などがないように、東日本会社に対して強く求めるものである。